

園だより

《こどもがまんなか》

『そむたっ子』No.10



ご協力ありがとうございました！よきお年をお迎えください

園長 高山 達也

寒さが日に日に厳しくなり、冷え込みが強まってきました。しかし、子どもたちは毎日、元氣いっぱい園庭を走りまわっています。2学期は、運動会、なかよし発表会と大きな行事もあり、友だち同士のつながりも深まり、子どもたちの遊びも広がりが見られるようです。先日の「なかよし発表会」には多数のご参加をいただき、ありがとうございました。久しぶりの人数制限なしの開催のために、会場に入りきれぬだろうか、園庭・高等技術専門校の駐車場に車が入りきれぬかと心配いたしました。保護者の皆様方のご協力によりまして無事に終えることができました。ありがとうございました。17日には別院よりお越しいただき、「出張除夜の鐘つき」がありました。子どもたちもおそろおそろ鐘つきをしました。よく煩惱が108あるので、除夜の鐘は108つくと言われますが、浄土真宗では煩惱はたくさんあるので、つく数にきまりはないそうです。18日には園外保育で「城山登山」でした。展望所に向かう観光客の方々や健康づくりのためにウォーキングやジョギングをしている人々など、思い思いに城山を楽しんでいます。市内のすぐそばにこのような場所があることは、とても素敵なことだと思います。20日には、餅つきがありました。臼や杵を使っての餅つきも、あまり見られなくなりました。餅は買うものか、電動の「餅つき機」でつくるものになりました。子どもたちが楽しく、年末の体験をすることができてうれしいです。保護者の皆様方には、教育・保育活動にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございました。インフルエンザが増えておりますが、体調管理にご留意いただき、よいお年をお迎えください。



♡えがお いっぱい♡



保育計画

保育信条

尊いみ教を信じて
ほとけのこどもを育てます

主題

『報恩(ほうおん)』～よろこびます～
恩という字は因の下に心を書きます。原因を知ったり感じたりする心と理解してもよいでしょう。
人としてこの世に生まれたのはなぜか、生きるとは何か、など自己に問いを発するとき、そこには自分の力だけではなく、目には見えない他の大きな力が働いていることに気付かされます。いろんな恩に報いているとはどういう生き方かを、考えてみましょう。

☆報恩講☆

12月11日(水)、すみれ組の子どもたちが西本願寺鹿児島別院に出かけ、『報恩講』のお参りに参加しました。『報恩講』とは浄土真宗で最も大事な行事で、親鸞聖人のお亡くなりになった1月16日にちなんで、親鸞聖人のご苦労に感謝する集いのことです。

「感謝の心」は言うのは易し、行いは難しです。特に私たちは何か物をもったり、何かしてもらった場合は素直に感謝してお礼を言うことができますが、目に見えないものに対して感謝する心を持つことは難しいようです。「まことの保育」の基本は、目に見えないけれど、私を包んでくださる阿弥陀さまの大きなお慈悲に感謝することを身につけることから始まります。小さいうちに、そのような心を培っておくことが、自分を取り巻いている人や環境に素直に感謝することができるようになると思います。子どもたちと共に「素直に感謝する心」を大切にしていきたいものです。

★2学期もありがとうございました★

『もういくつ寝るとお正月』もう少ししたら新しい年が始まります。子どもたちはもちろん、私たち大人も自分の歴史づくりの新たなスタートを迎えたいものです。

ご家族そろっての年末年始を幸せにお過ごしください。

2025年も、皆様にとって、良い年明けとなりますよう、
念じております。